

## 平成 28 年度研究科アンケートの結果について

### 集計結果

#### 1. 成果について

(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いませんか。

	とてもなった	まあまあなった	あまりならなかった	ほとんどならなかった
平成 28 年度	51(50.0%)	46(45.1%)	2(2.0%)	0(0.0%)
平成 27 年度	75(67.0%)	32(28.6%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	63(59.4%)	37(34.9%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	51(44.7%)	58(50.9%)	5(4.4%)	0(0.0%)

(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

	とても	少し	変わらない	あまり	ほとんど
平成 28 年度	38(37.3%)	38(37.3%)	14(13.7%)	6(5.9%)	1(1.0%)
平成 27 年度	49(43.8%)	41(36.6%)	14(12.5%)	6(5.7%)	0(0.0%)
平成 26 年度	47(44.3%)	29(27.4%)	18(17.0%)	3(2.7%)	0(0.0%)
平成 25 年度	43(37.7%)	34(29.8%)	27(23.7%)	6(5.3%)	4(3.5%)

(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

	すごく薦める	やや薦める	どちらとも	あまり薦めない	全く薦めない
平成 28 年度	20(19.6%)	59(57.8%)	14(13.7%)	4(3.9%)	2(2.0%)
平成 27 年度	38(33.9%)	57(50.9%)	13(11.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	29(27.4%)	41(38.7%)	25(23.6%)	2(1.9%)	4(3.8%)
平成 25 年度	15(13.2%)	36(31.6%)	43(37.7%)	8(7.0%)	5(4.4%)

※「自分のためになった」という問いに、「とてもなった」と回答した院生が昨年度より減少し、「まあまあなった」が増加した。「知り合いに薦めますか」という問いに対しては、「すごく」がかなり減少し、昨年度は回答がなかった「あまり薦めない」「全く薦めない」という回答が少数だが復活した。「あまり薦めない」「全く薦めない」の回答者 6 人の内、4 人がまだ在籍している院生である。

#### 2. カリキュラムについて

(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

	期待以上	まあまあ期待通り	少し期待はずれ	全く期待はずれ
平成 28 年度	24(23.5%)	62(60.8%)	15(14.7%)	0(0.0%)
平成 27 年度	50(44.6%)	58(51.8%)	4(3.6%)	0(0.0%)
平成 26 年度	28(26.4%)	65(61.3%)	13(12.3%)	0(0.0%)
平成 25 年度	12(10.5%)	72(63.2%)	26(22.8%)	3(2.6%)

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	12(11.8%)	66(64.7%)	22(21.6%)	1(1.0%)
平成 27 年度	22(19.6%)	75(67.0%)	12(10.7%)	2(1.8%)
平成 26 年度	18(17.0%)	55(51.9%)	31(29.2%)	2(1.9%)
平成 25 年度	5( 4.4%)	57(50.0%)	44(38.6%)	7(6.1%)

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 28 年度	14(13.7%)	72(70.8%)	14(13.7%)	1(1.0%)
平成 27 年度	25(22.3%)	80(71.4%)	7( 6.3%)	0(0.0%)
平成 26 年度	30(28.3%)	64(60.4%)	11(10.4%)	1(0.9%)
平成 25 年度	10( 8.8%)	70(61.4%)	32(28.1%)	1(0.9%)

(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 28 年度	26(25.5%)	65(63.7%)	3( 2.9%)	0(0.0%)
平成 27 年度	48(42.9%)	62(55.4%)	1( 0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	34(32.1%)	66(62.3%)	2( 1.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	26(22.8%)	75(65.8%)	12(10.5%)	0(0.0%)

(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

	多かった	ちょうどよかった	少なかった
平成 28 年度	4( 3.9%)	69(67.6%)	23(22.5%)
平成 27 年度	3( 2.7%)	91(81.3%)	18(16.1%)
平成 26 年度	23(21.7%)	62(58.5%)	17(16.0%)

(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
平成 28 年度	16(15.7%)	64(62.7%)	13(12.7%)	3(2.9%)
平成 27 年度	30(26.8%)	73(65.2%)	9( 8.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	32(30.2%)	54(50.9%)	15(14.2%)	1(0.9%)

(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 28 年度	10(27.0%)	19(51.4%)	5(13.5%)	1(2.7%)
平成 27 年度	13(27.1%)	33(68.8%)	2( 4.2%)	0(0.0%)
平成 26 年度	17(34.0%)	27(54.0%)	2( 4.0%)	0(0.0%)

(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 28 年度	11(22.9%)	29(60.4%)	3( 6.3%)	2(4.2%)
平成 27 年度	23(48.9%)	18(38.3%)	6(12.8%)	0(0.0%)

※カリキュラムに関わる問いについて、昨年度と比較すると、肯定的回答が減少した。昨年度と比べると、院生の評価が厳しくなったと捉えられる。まず授業内容について、「期待以上だった」という回答がかなり減少し、「少し期待はずれだった」という回答がかなり増加した。教育課程がふさわしいものになっているという問いについても、肯定的回答が減少し、否定的回答が増加している。フィールドワークについても、回数の少なさを指摘する回答が増え、また学びに対する不満が高まっている。学部新卒院生の M1 のカリキュラムに対する評価は、若干否定的な回答が増えている。学部新卒院生の M2 のカリキュラムに対する評価は、「とても思う」がかなり減少し、「ややそう思う」が増加、昨年 0 であった「全く思わない」という回答が 2 人になった。カリキュラムに対する評価は決して高くはなく、フィールドワークのあり方も含めて、継続して改善に向けた検討をしていく必要がある。

### 3. 院生への支援体制について

(12) 履修指導は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	23(22.5%)	62(60.8%)	8( 7.8%)	2(2.0%)
平成 27 年度	42(37.5%)	61(54.5%)	6( 5.4%)	0(0.0%)
平成 26 年度	36(34.0%)	52(49.1%)	13(12.3%)	1(0.9%)
平成 25 年度	26(22.8%)	60(52.6%)	21(18.4%)	5(4.4%)

(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	20(23.5%)	47(55.3%)	7( 8.2%)	1(1.2%)
平成 27 年度	30(31.6%)	48(50.5%)	15(15.8%)	1(1.1%)
平成 26 年度	21(19.8%)	51(48.1%)	16(15.1%)	2(1.9%)
平成 25 年度	18(15.8%)	59(51.8%)	23(20.2%)	1(0.9%)

(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	23(27.1%)	47(55.3%)	7( 8.2%)	0(0.0%)
平成 27 年度	43(45.3%)	44(46.3%)	6( 6.3%)	1(1.1%)
平成 26 年度	37(34.9%)	45(42.5%)	9( 8.5%)	0(0.0%)
平成 25 年度	29(25.4%)	49(43.0%)	21(18.4%)	4(3.5%)

(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 28 年度	46(45.1%)	42(41.2%)	7(6.9%)	0(0.0%)
平成 27 年度	67(59.8%)	39(34.8%)	5(4.5%)	0(0.0%)
平成 26 年度	59(55.7%)	39(36.8%)	3(2.8%)	1(0.9%)

※院生への指導体制については、例年通りの傾向で、目立った変化はない。例年通り、不満を感じている院生がいることから、その理由を探り、改善を図って行くことが必要である。また「適切」「とてもそう思う」という回答が減少しているのも気になるところである。

#### 4. 施設設備

(16)-1 教室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	18(17.0%)	52(51.0%)	19(18.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	18(16.1%)	67(59.8%)	21(18.8%)	3(2.7%)
平成 26 年度	18(17.0%)	59(55.7%)	22(20.8%)	3(2.8%)
平成 25 年度	7(6.1%)	61(53.5%)	40(35.1%)	6(5.3%)

(16)-2 院生室の設備は適切でしたか。

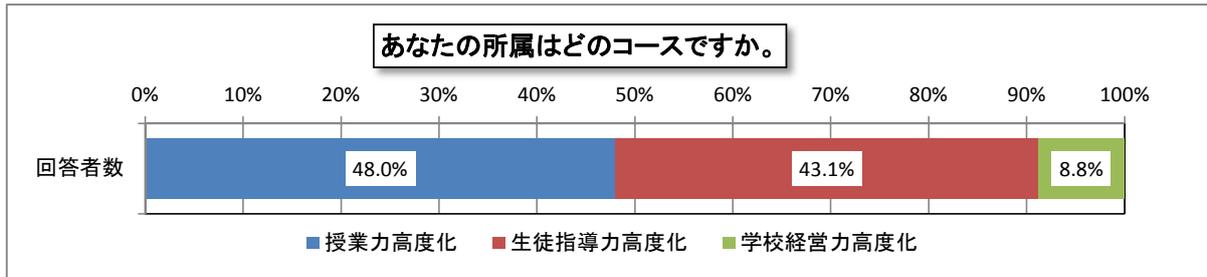
	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	17(16.7%)	55(53.9%)	22(21.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	16(14.0%)	48(42.1%)	42(36.8%)	7(6.1%)

(16)-3 大学の設備は適切でしたか。

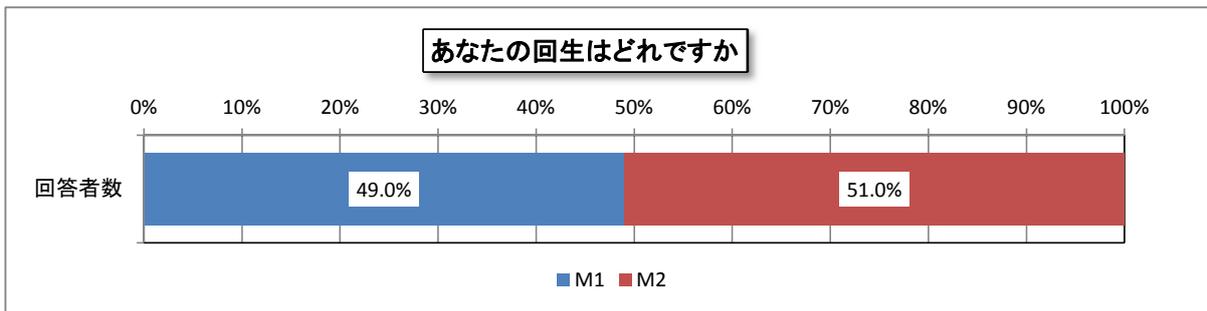
	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 28 年度	11(10.8%)	51(50.0%)	35(34.3%)	2(2.0%)
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	7(6.1%)	54(47.4%)	45(39.5%)	8(7.0%)

※例年と同様の結果である。院生の不満はかなり高いと受け止めなければならない。改善に向けた努力を可能な範囲で続けていくしかない。特に自由記述において、院生自習室のPCに対する不満が述べられているのが目立つ。

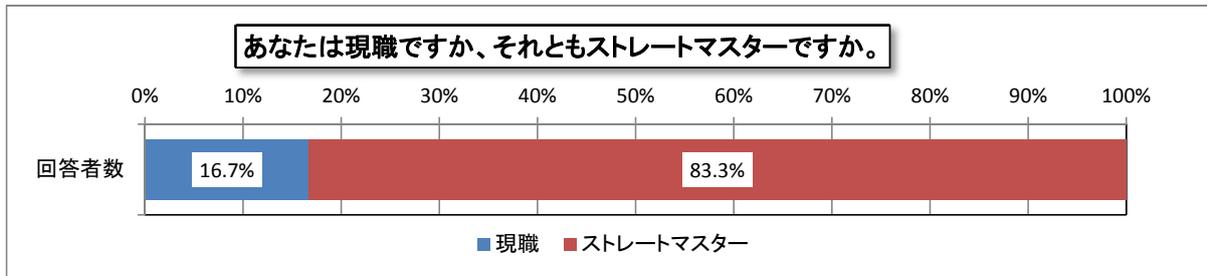
(1) あなたの所属はどのコースですか。



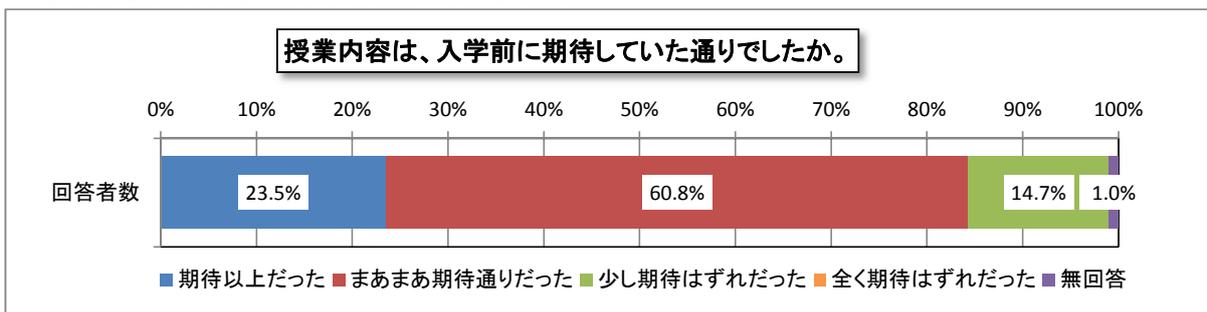
(2) あなたの回生はどれですか。



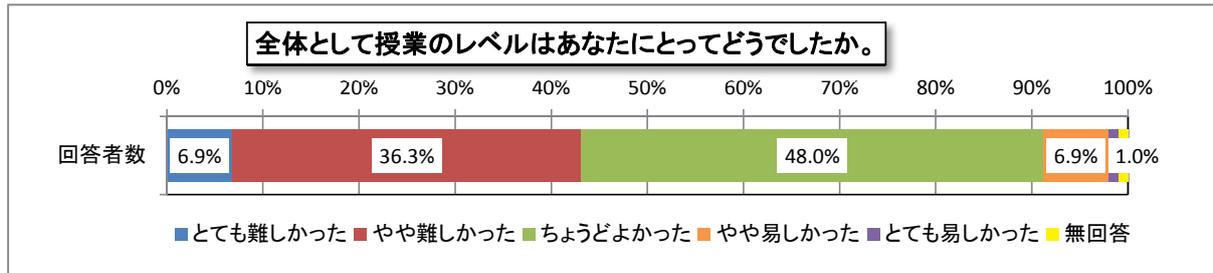
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



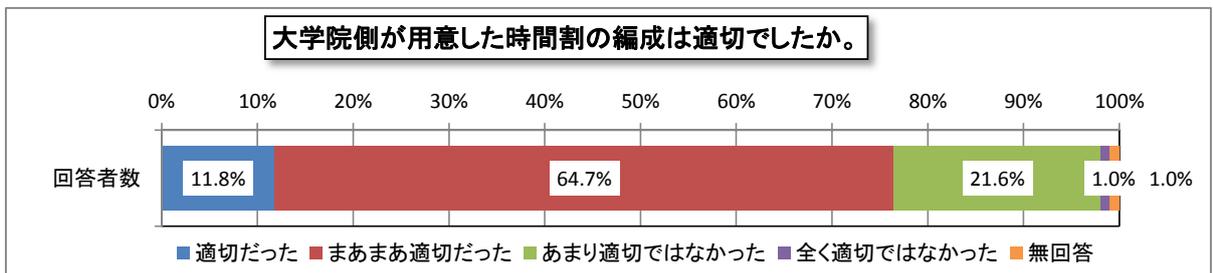
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



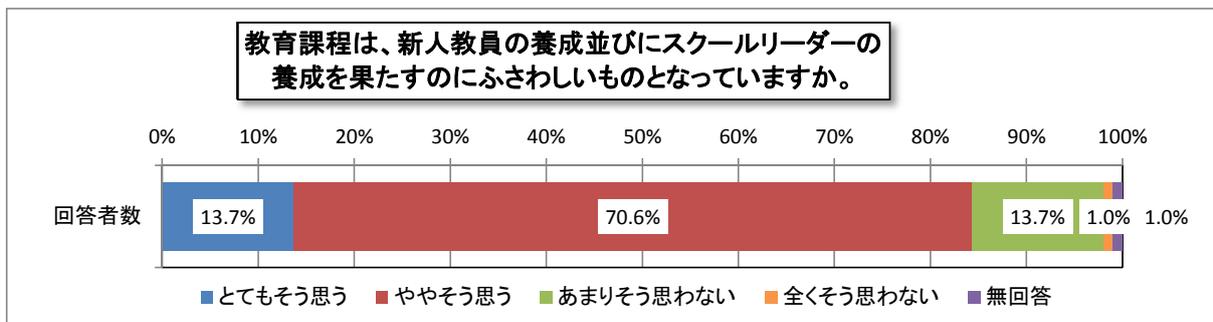
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



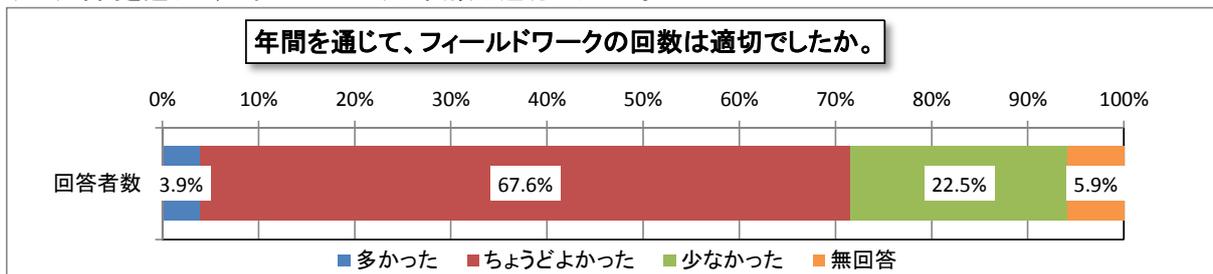
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



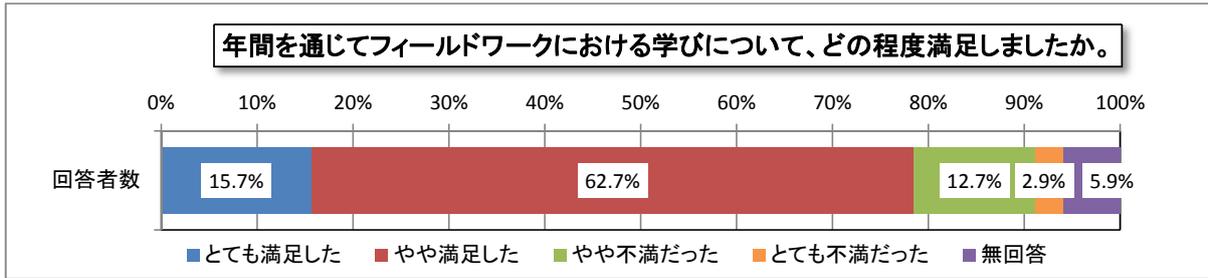
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



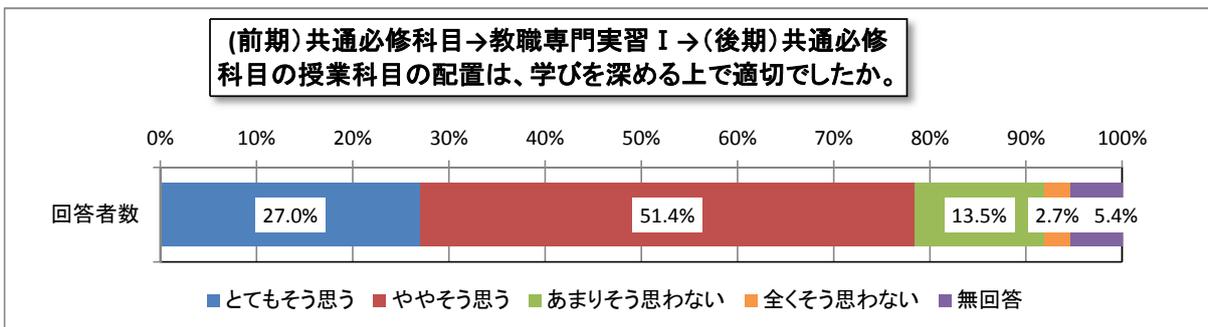
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



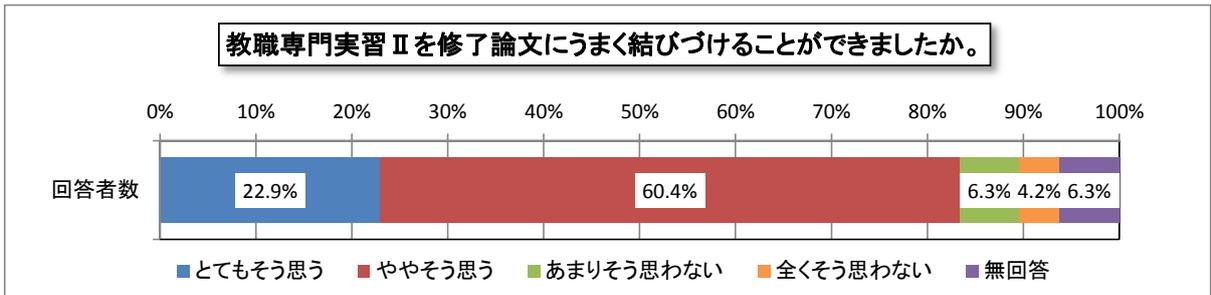
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



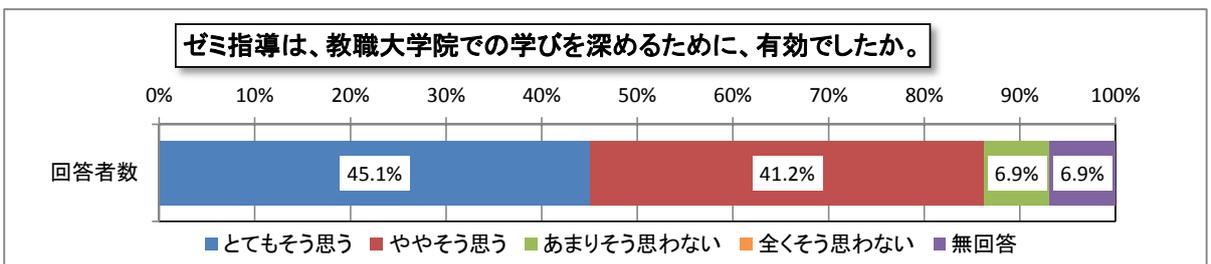
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



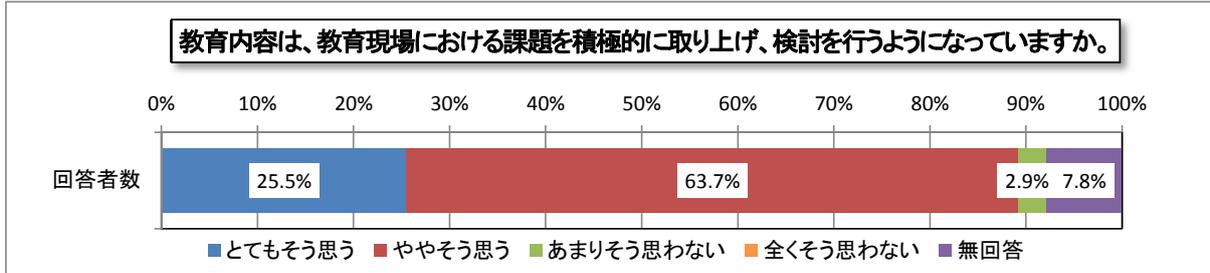
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



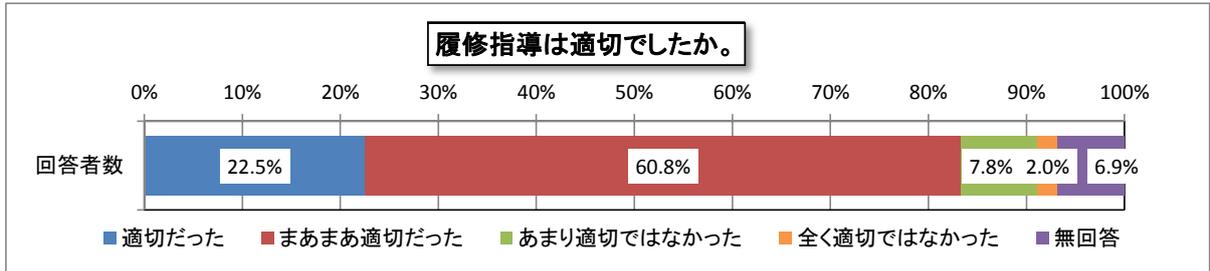
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



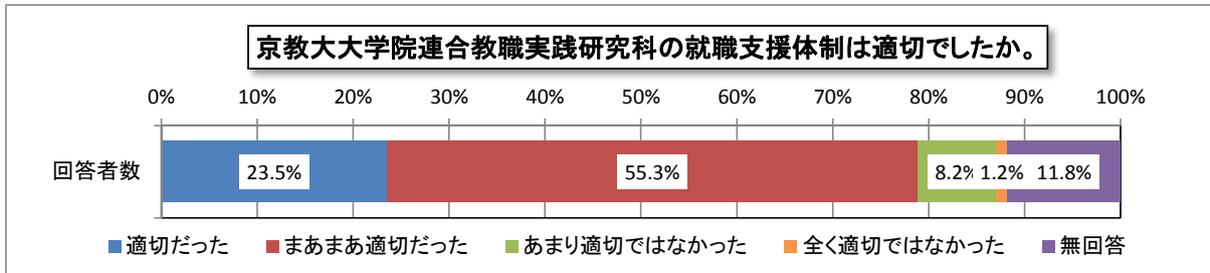
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



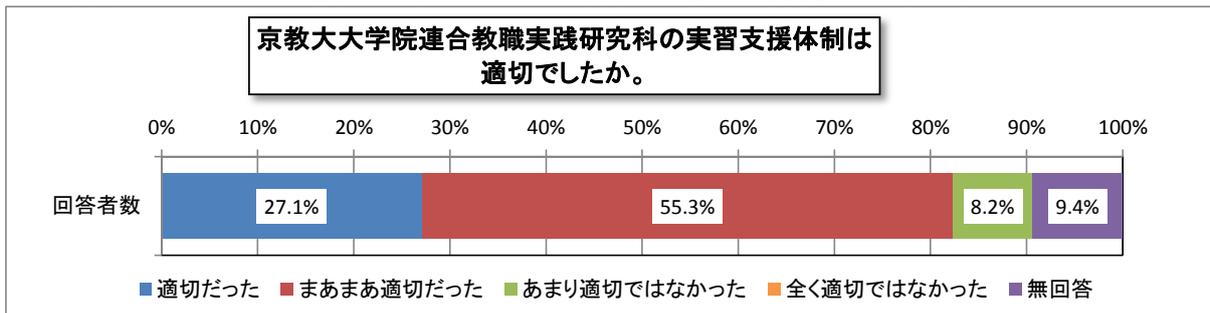
(12) 履修指導は適切でしたか。



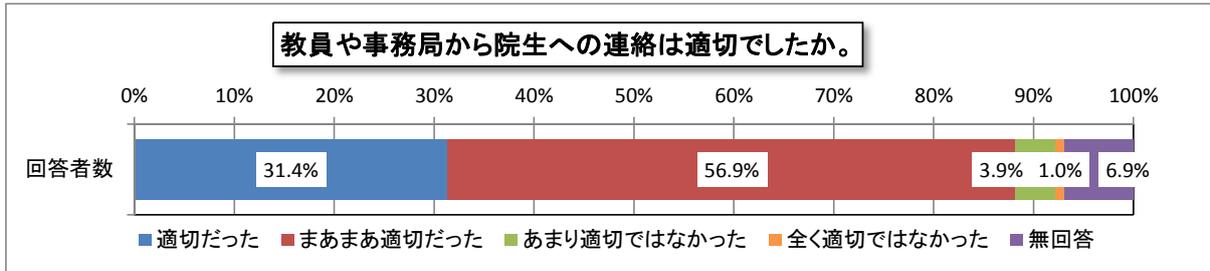
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



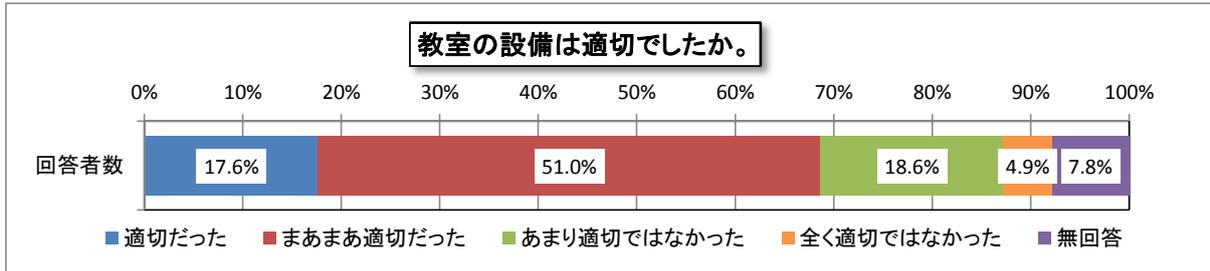
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



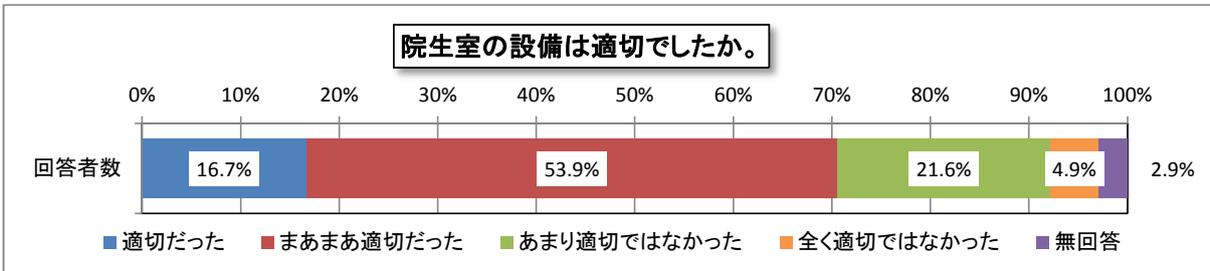
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



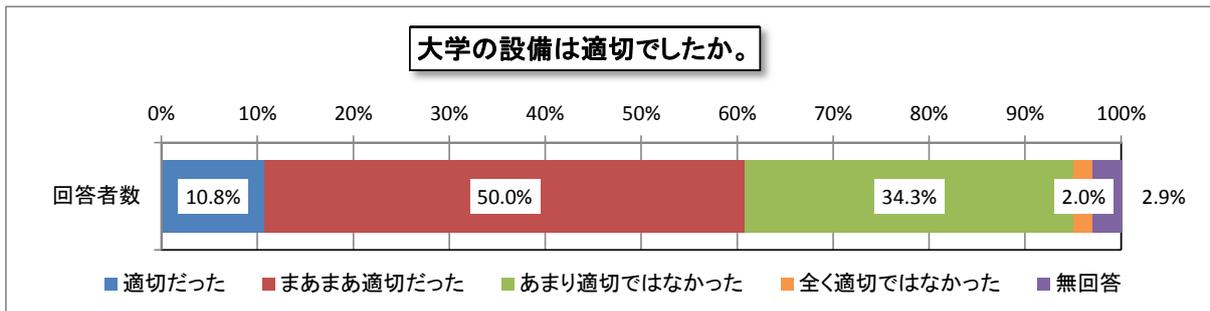
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



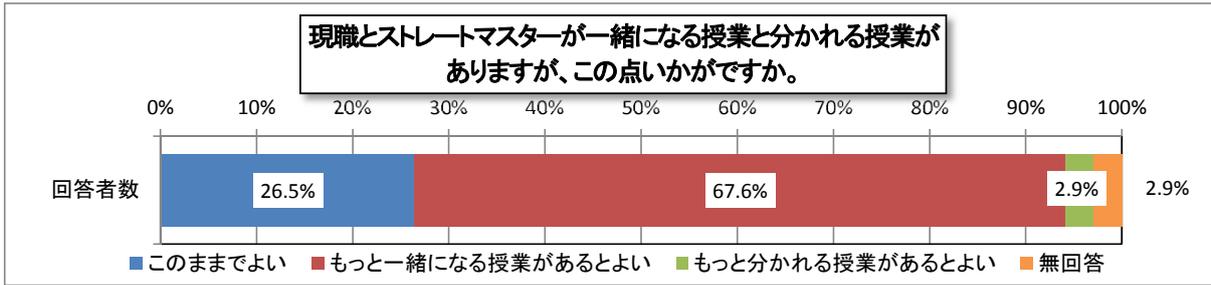
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



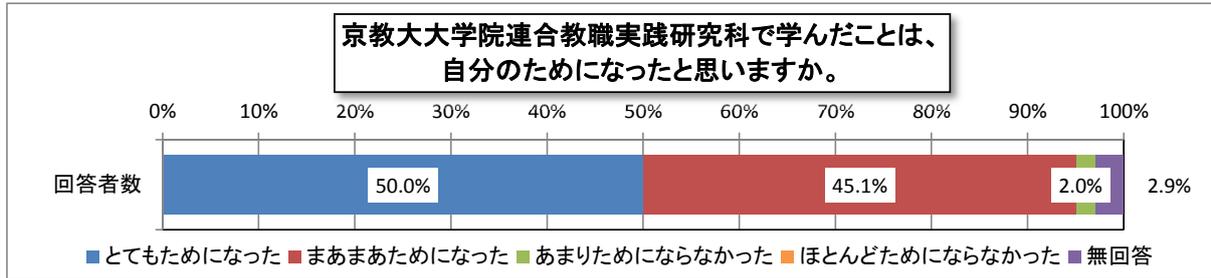
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



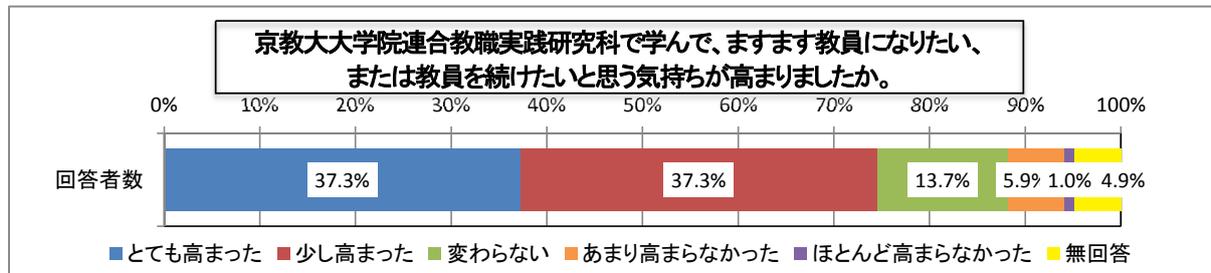
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



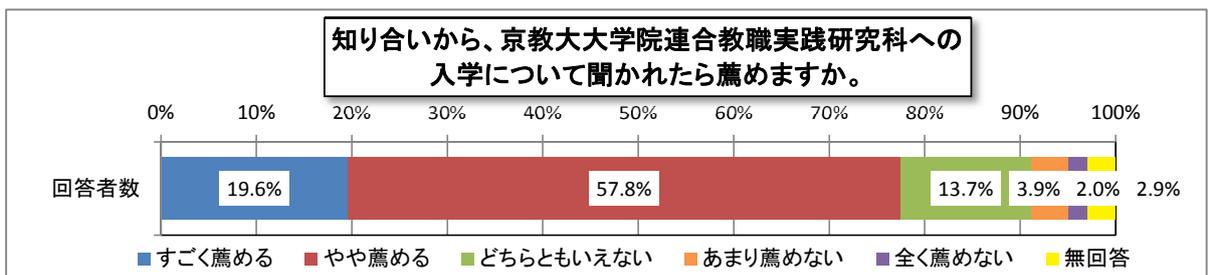
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



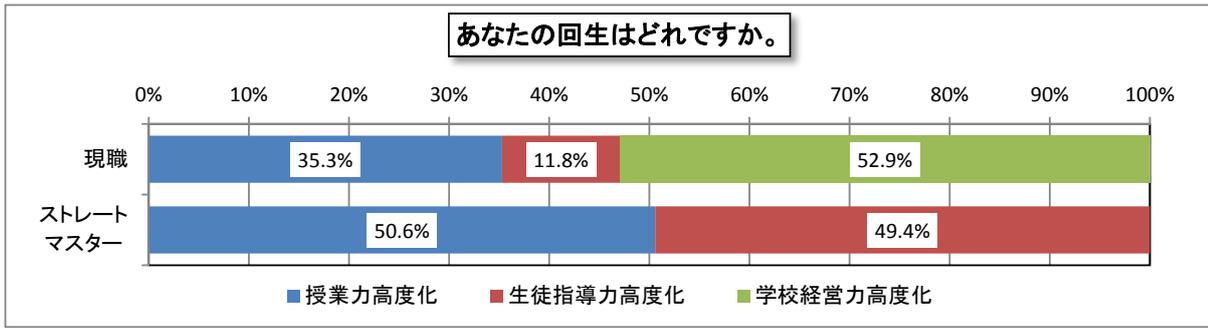
(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



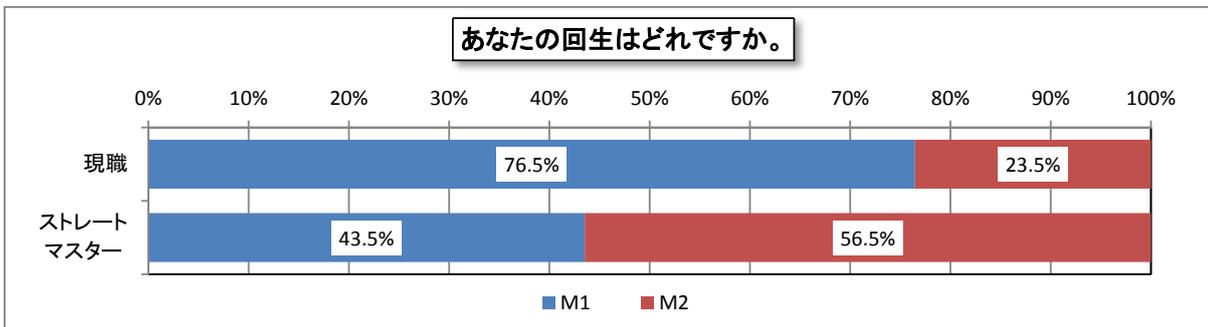
(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。



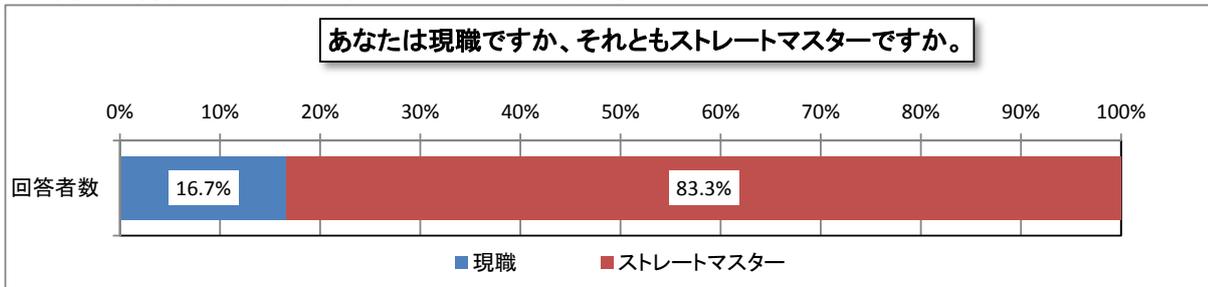
(1) あなたの所属はどのコースですか。



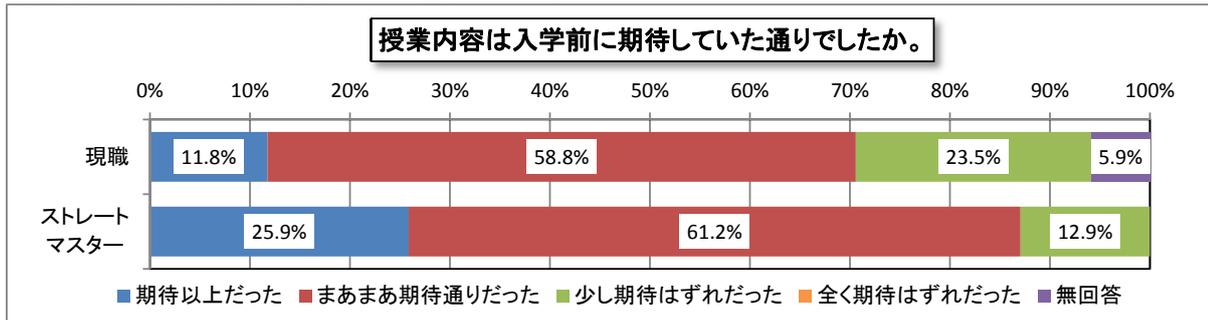
(2) あなたの回生はどれですか。



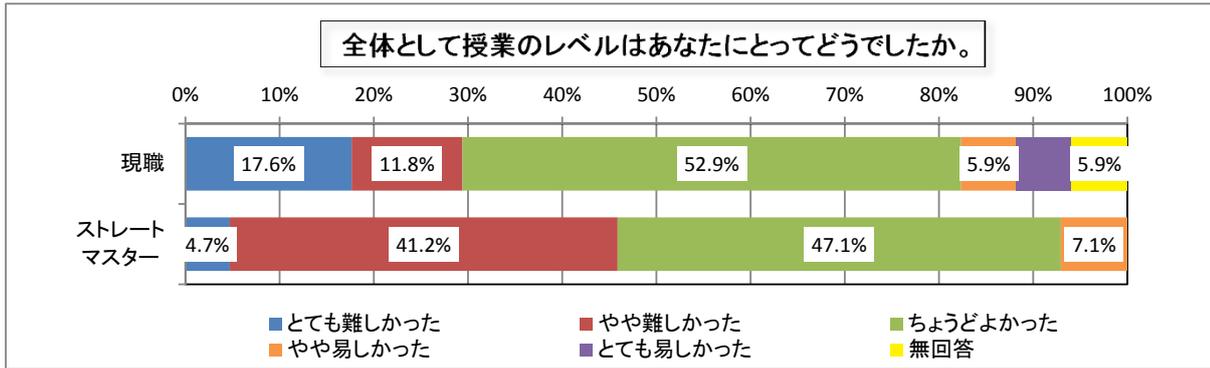
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



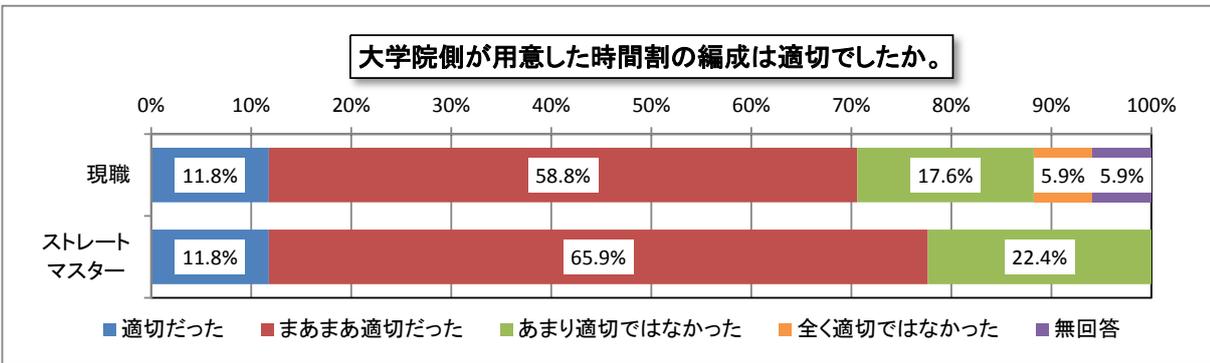
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



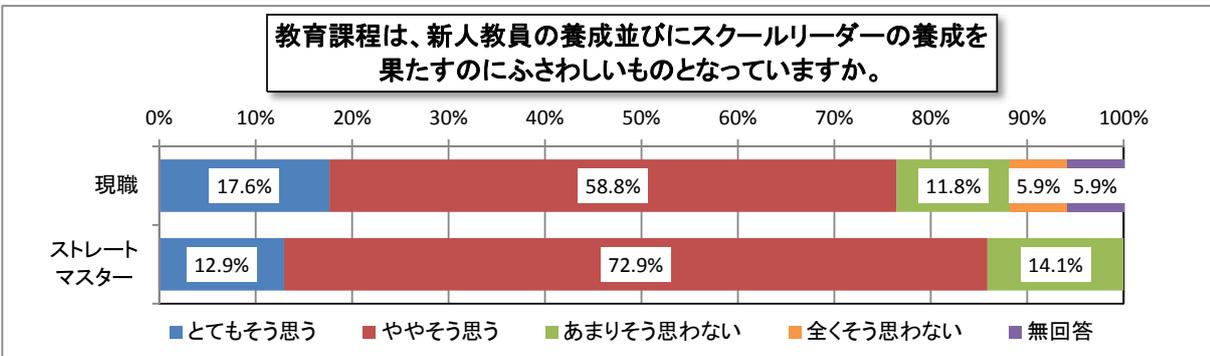
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



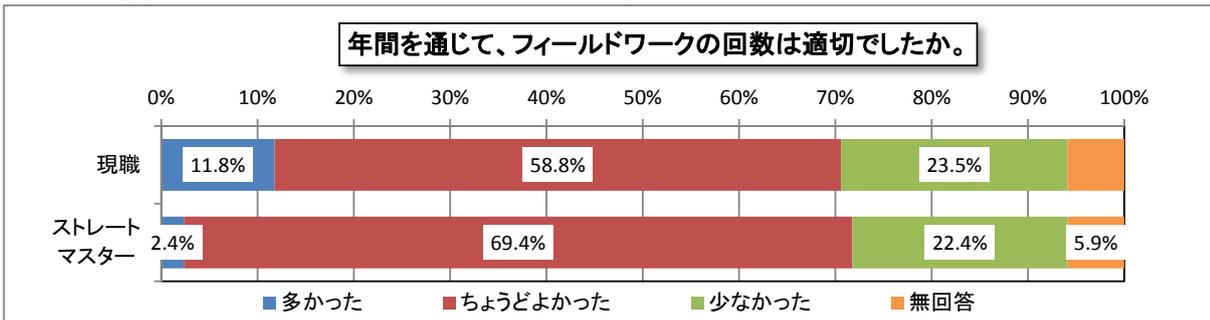
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



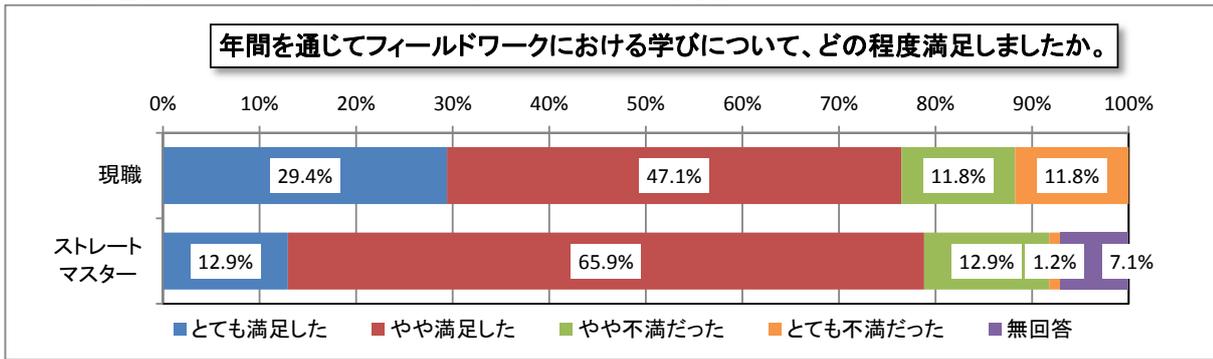
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



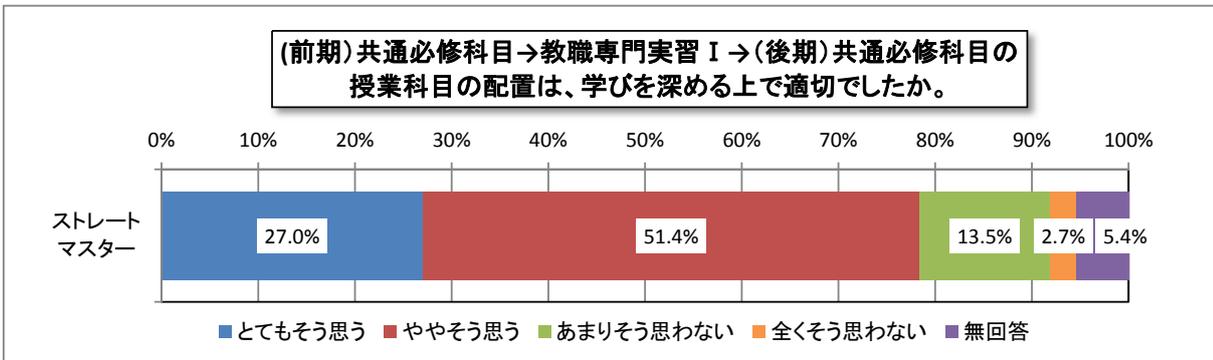
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



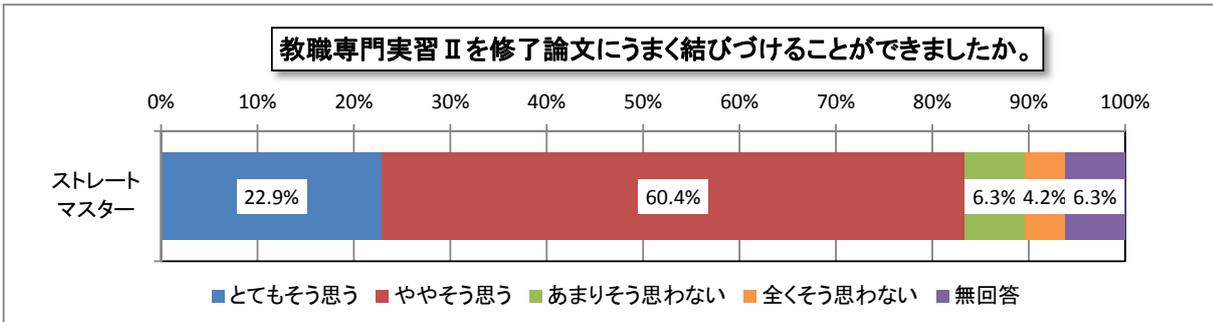
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



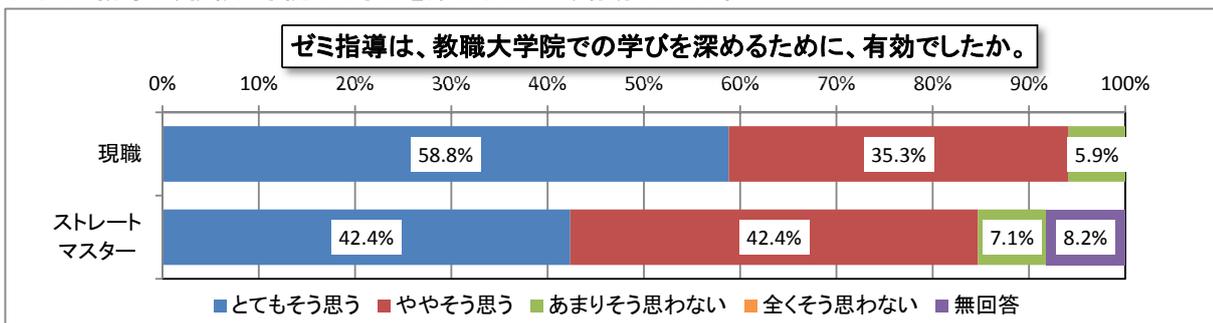
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



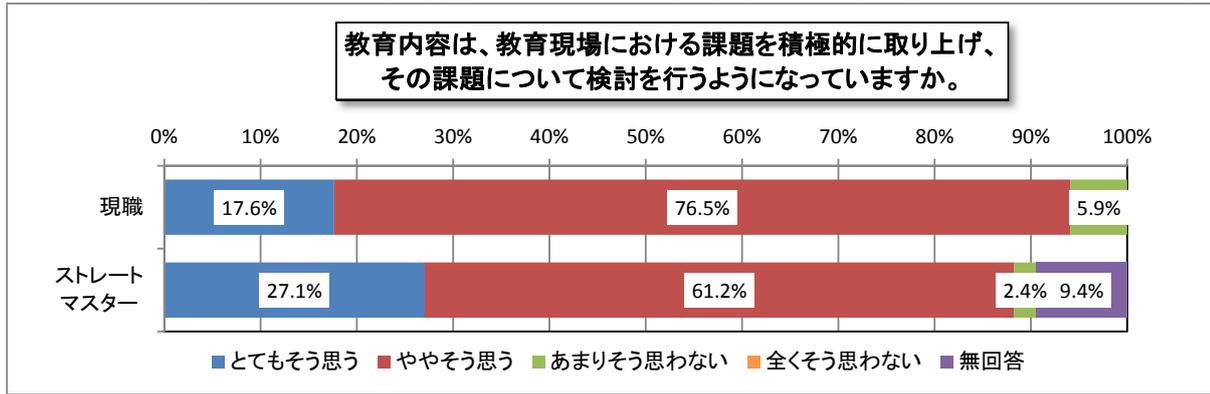
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



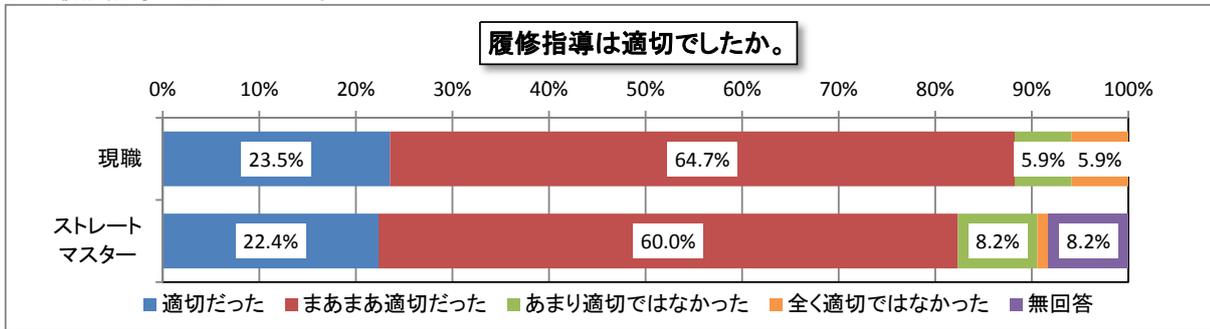
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



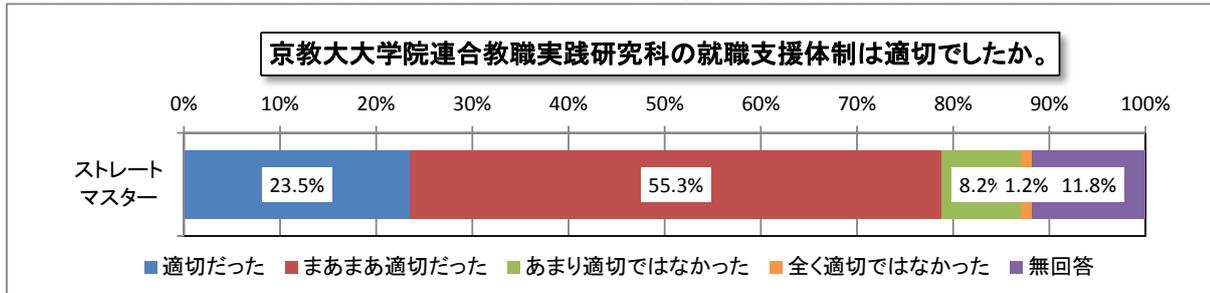
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



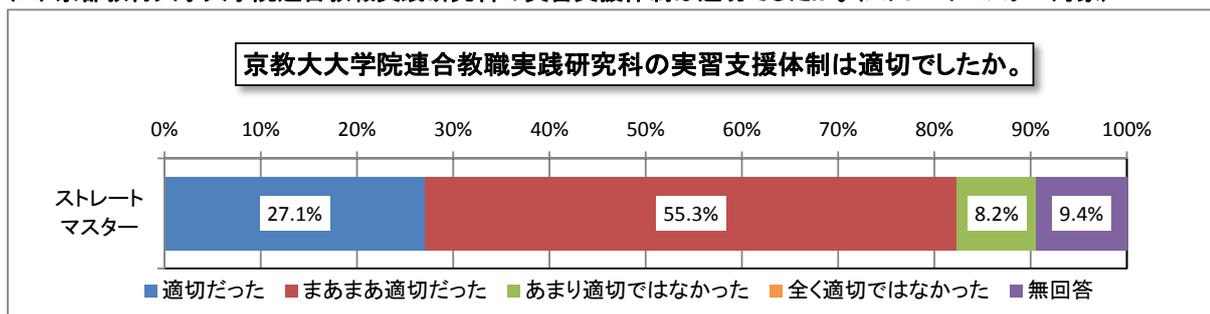
(12) 履修指導は適切でしたか。



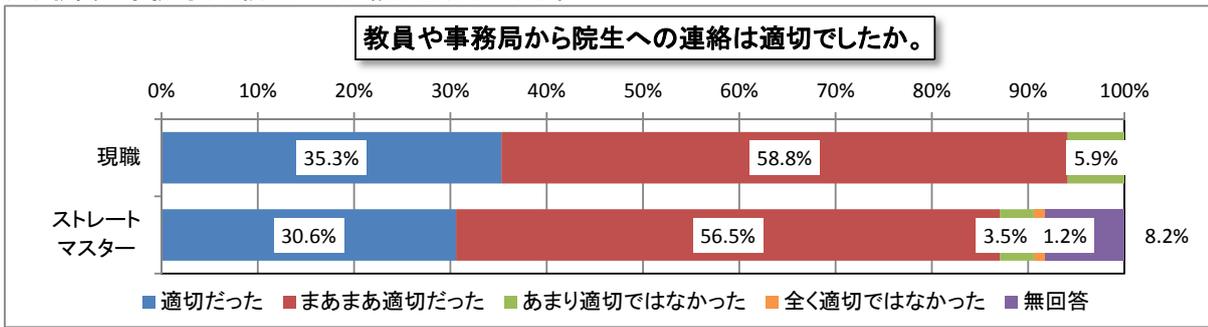
(13) 京大大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



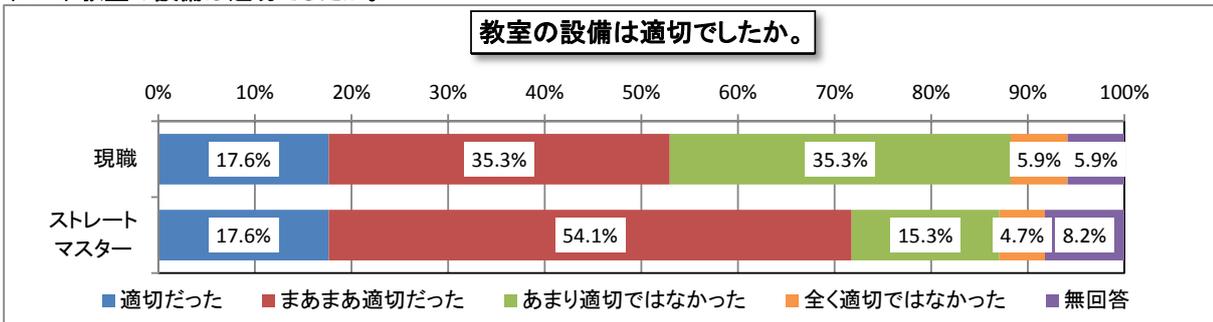
(14) 京大大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



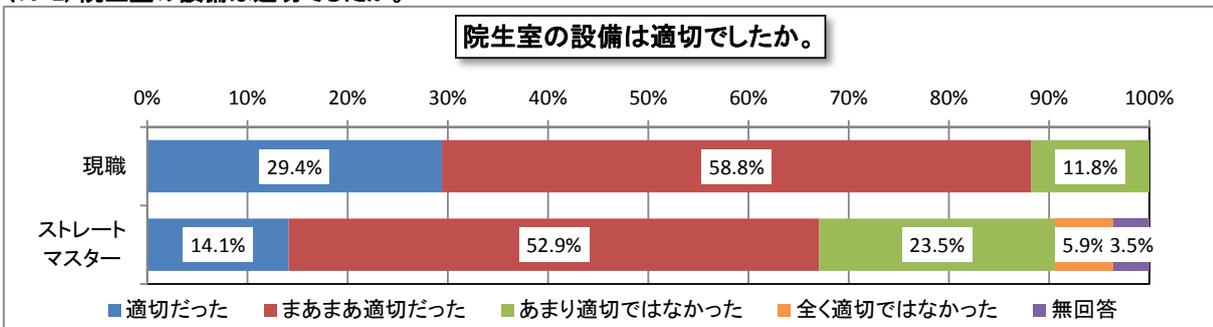
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



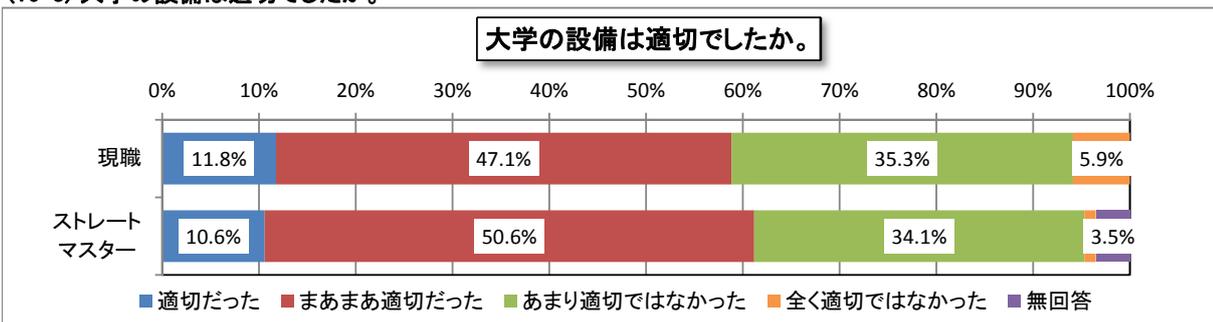
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



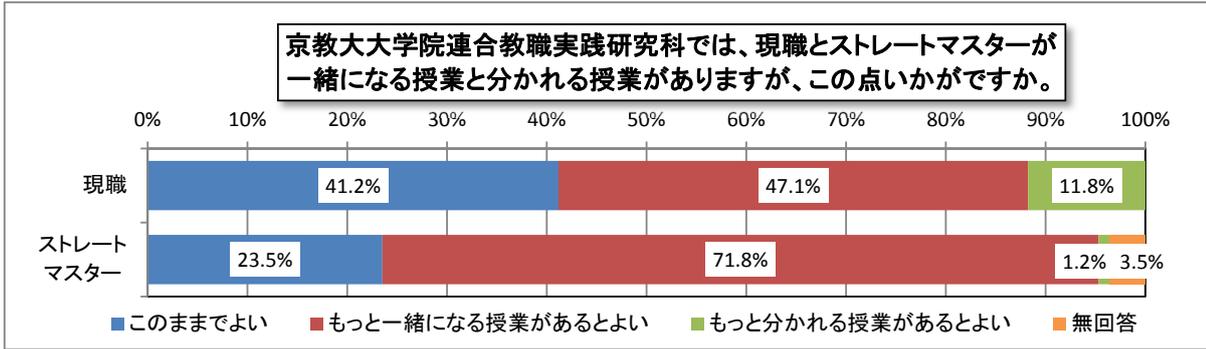
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



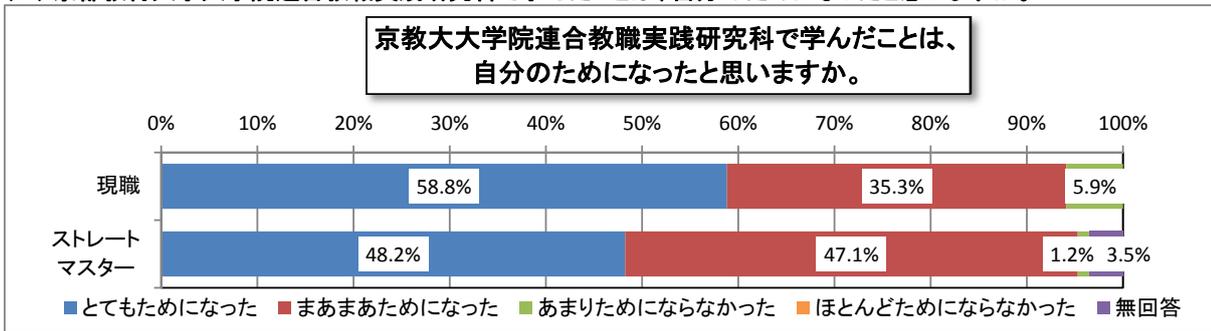
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



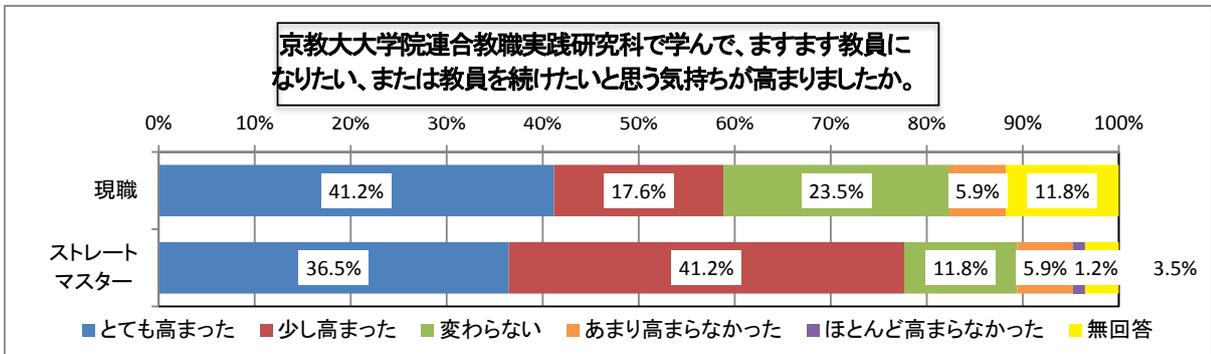
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



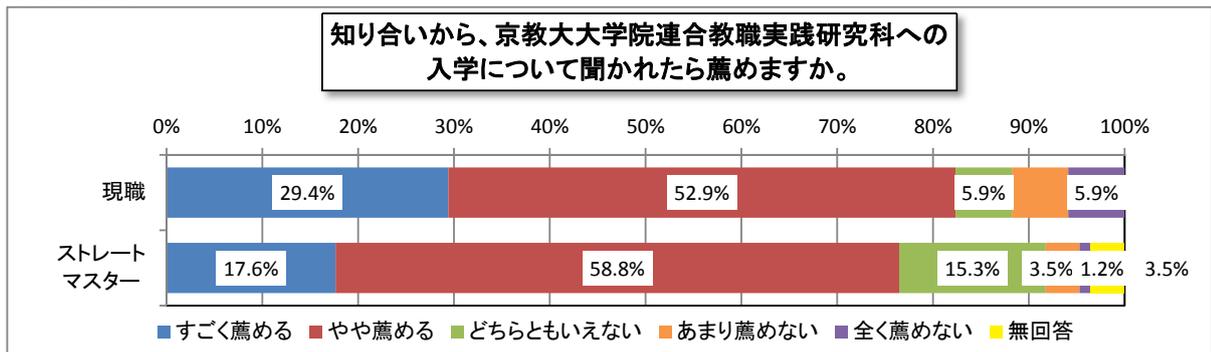
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

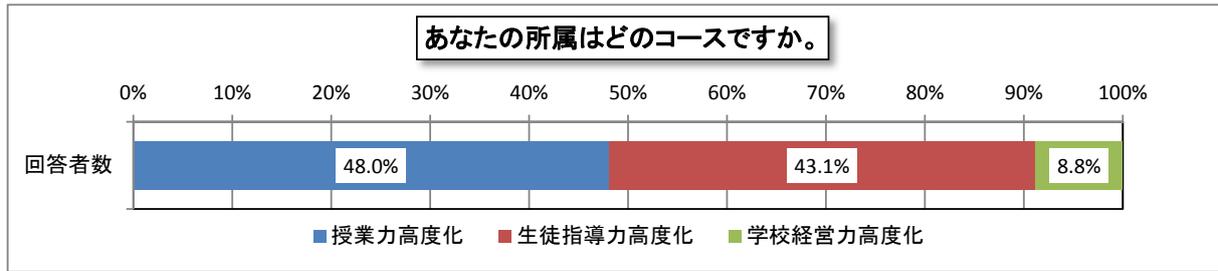


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

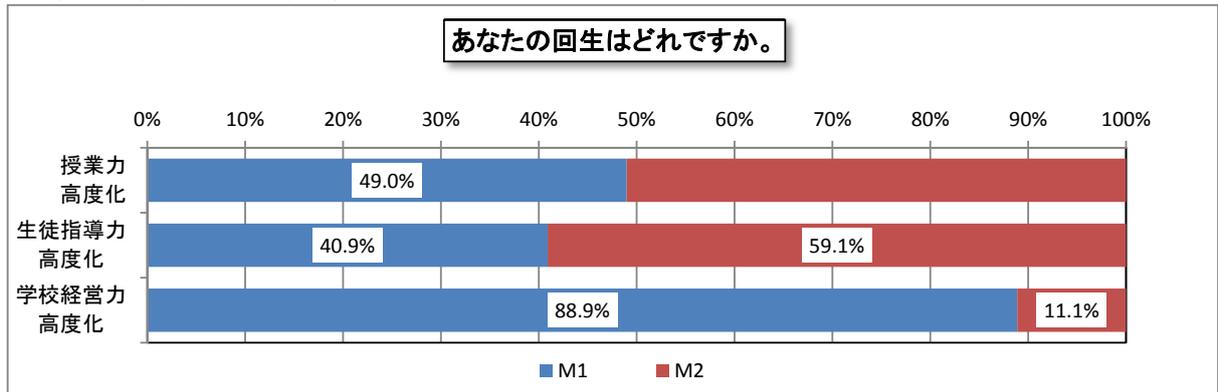


研究科アンケート(平成28年度 コース別)

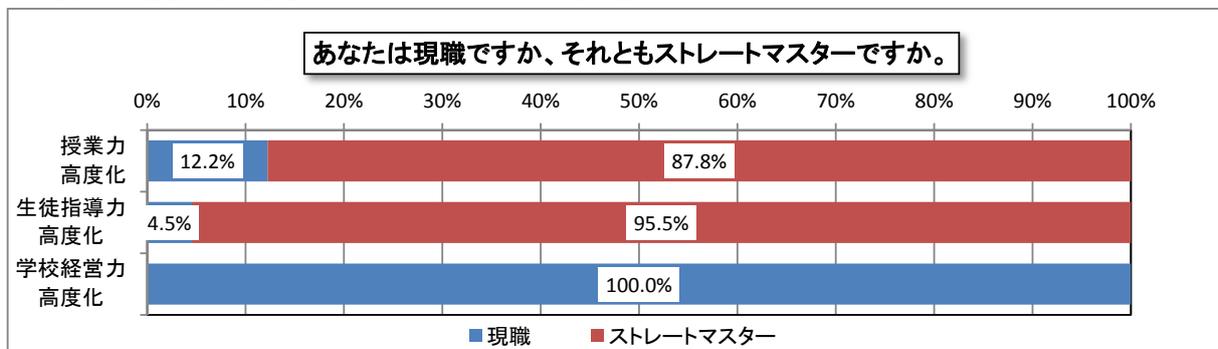
(1) あなたの所属はどのコースですか。



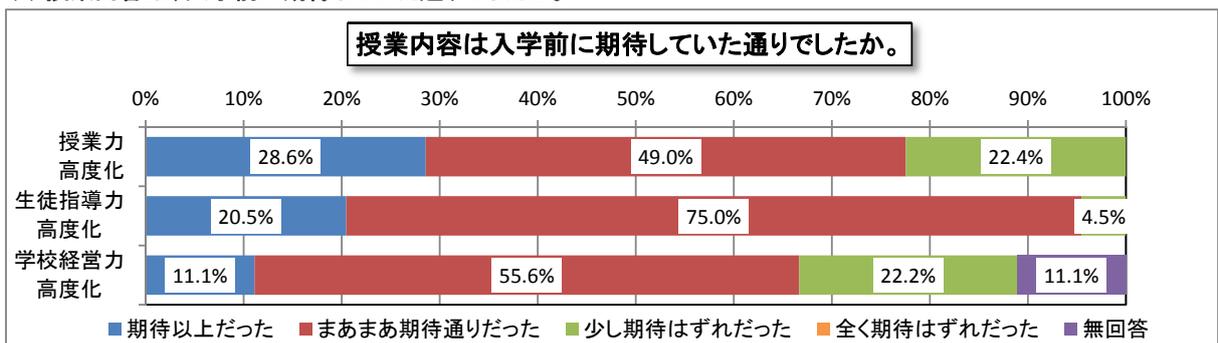
(2) あなたの回生はどれですか。



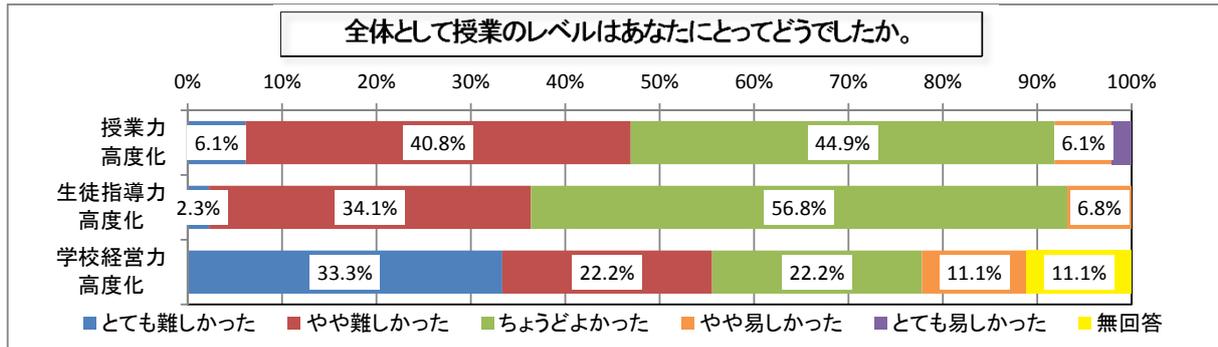
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



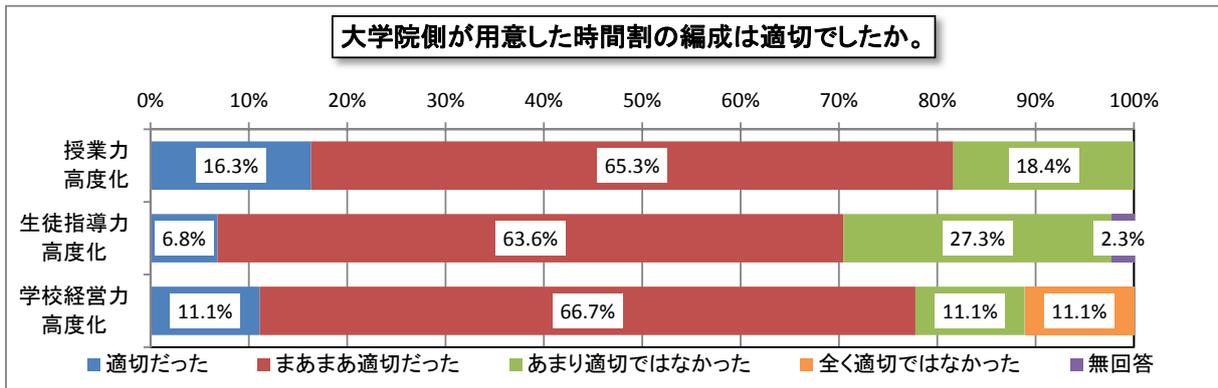
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



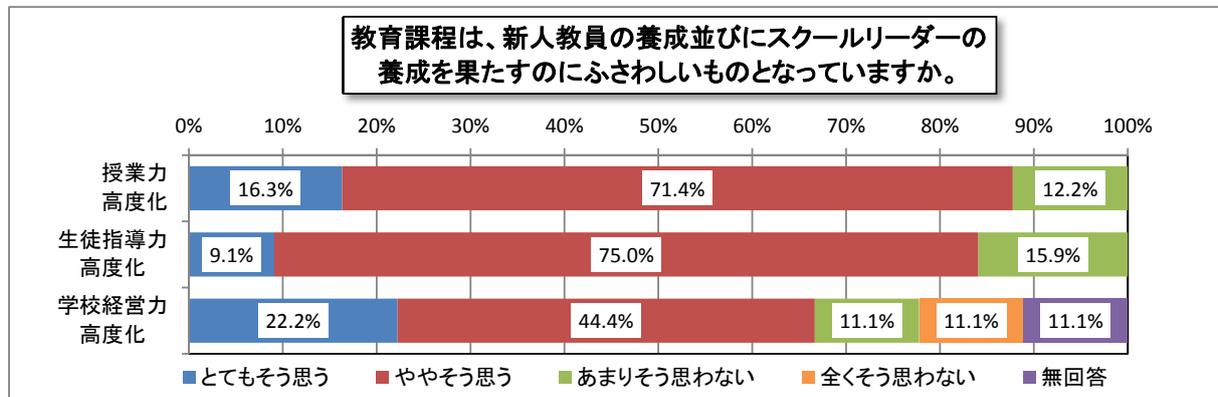
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



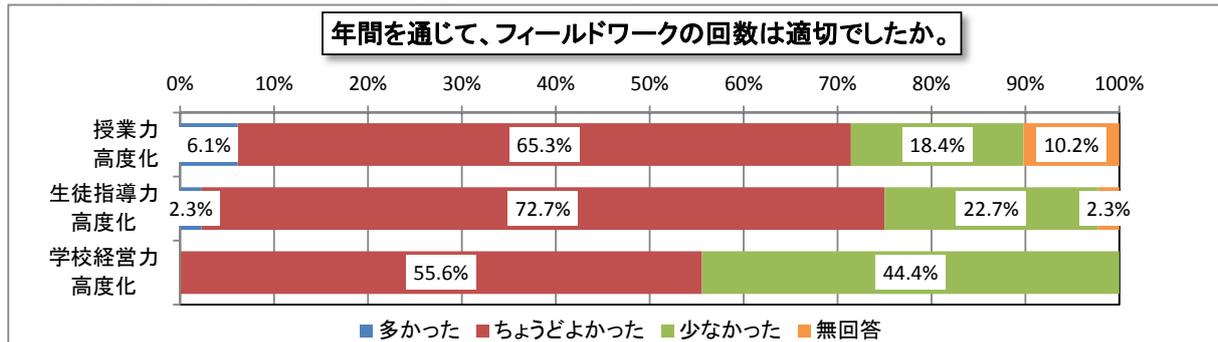
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



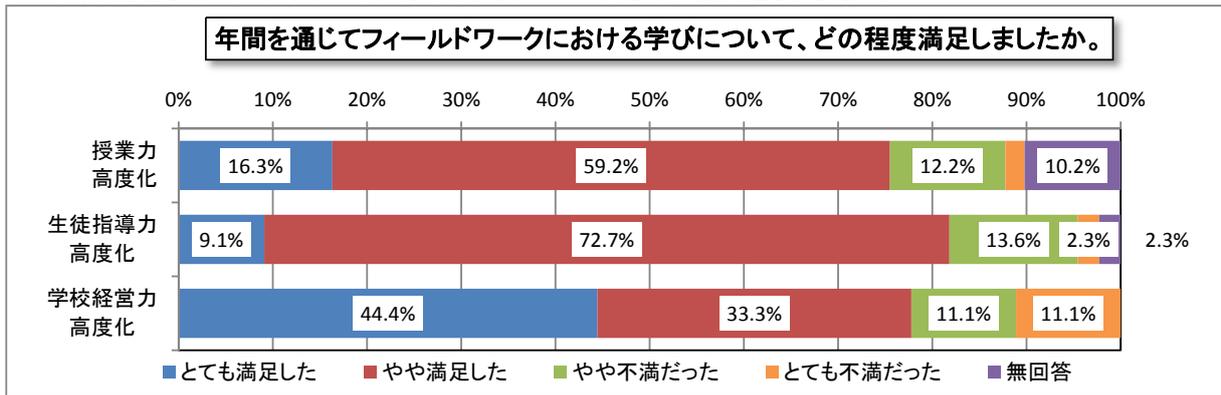
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



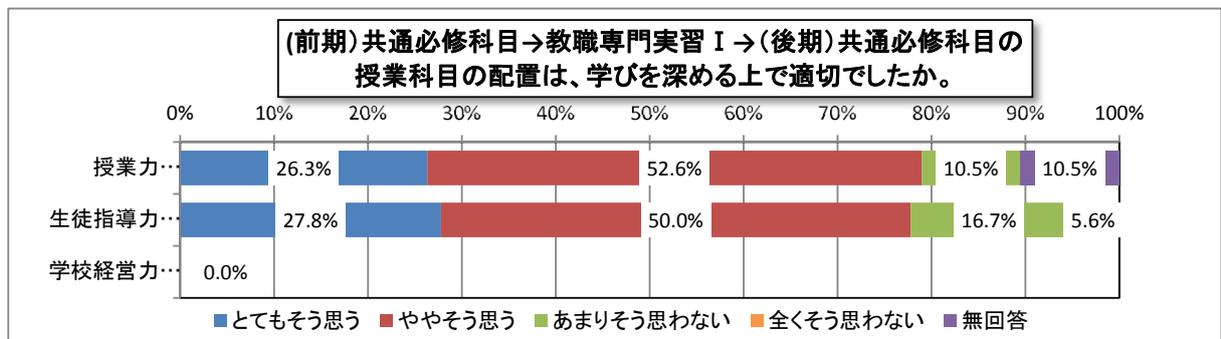
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



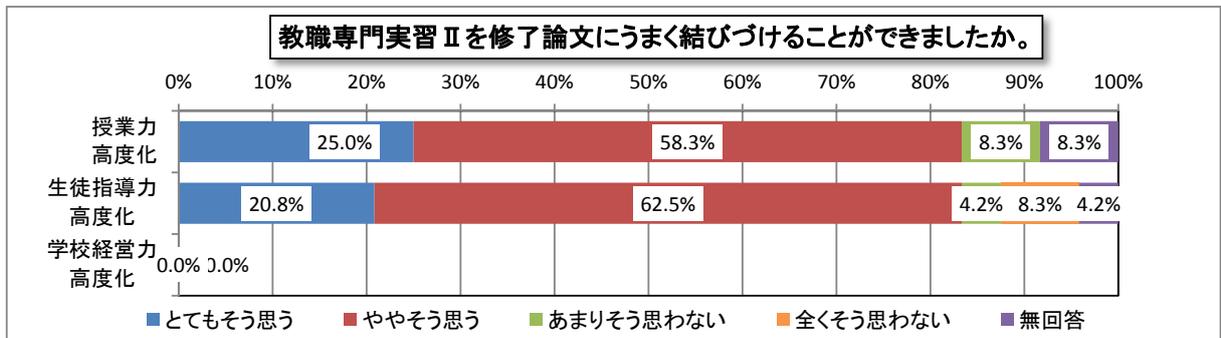
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



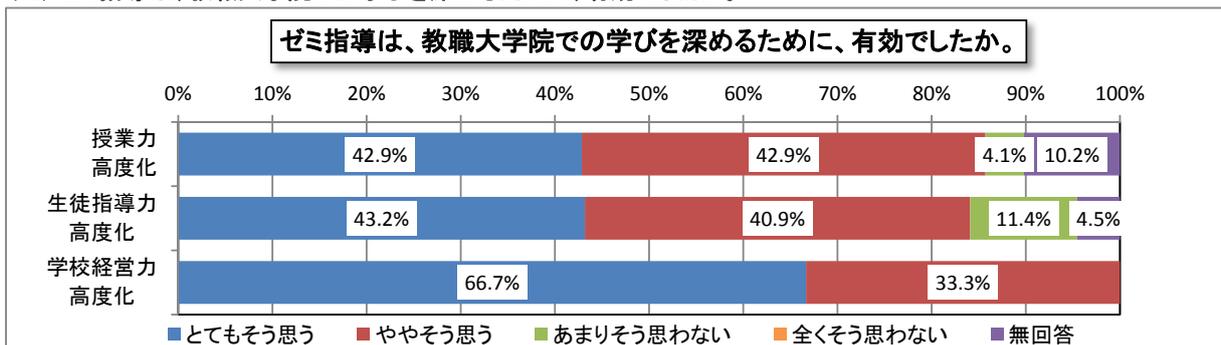
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



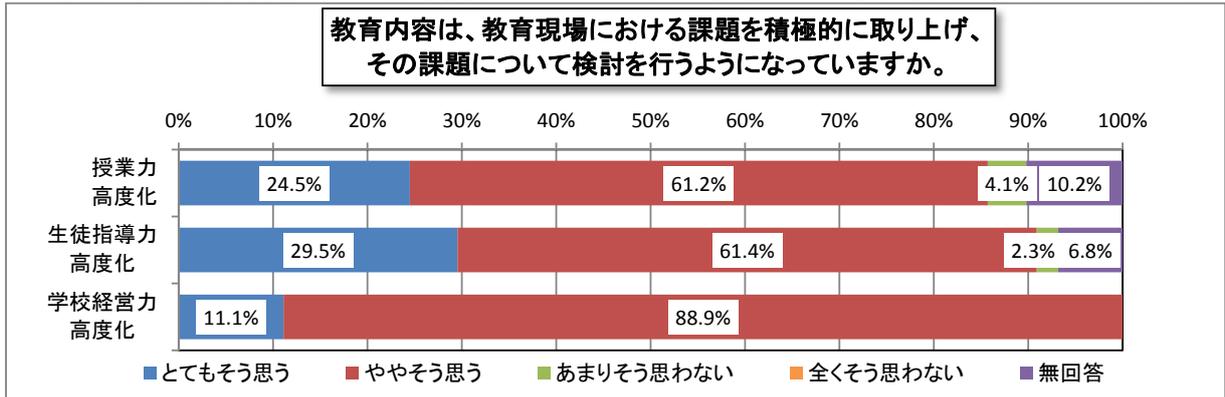
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



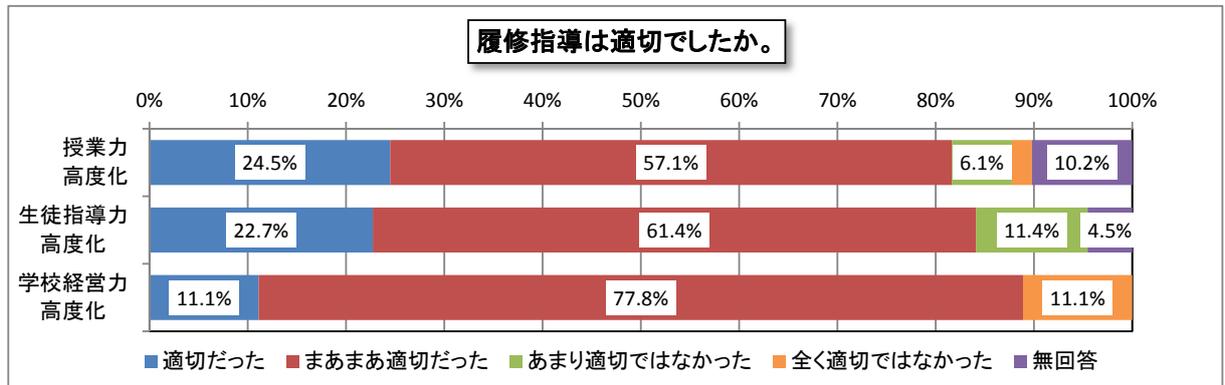
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



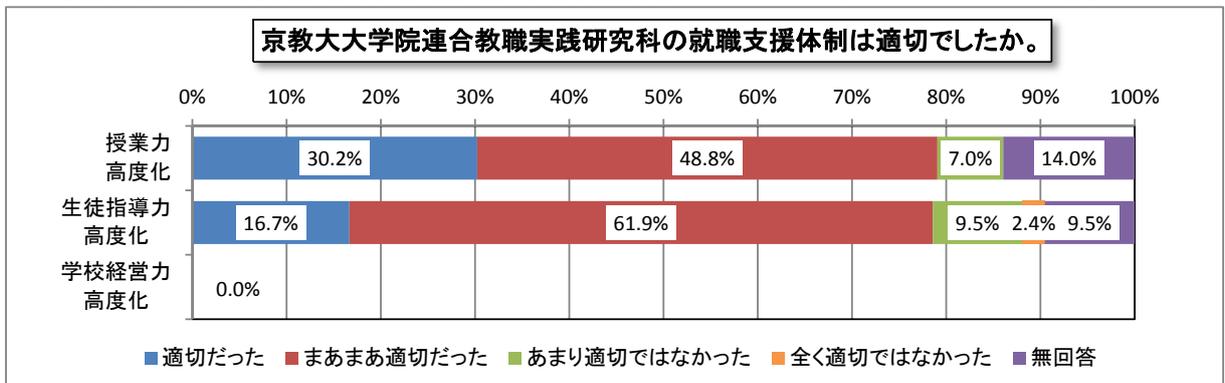
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



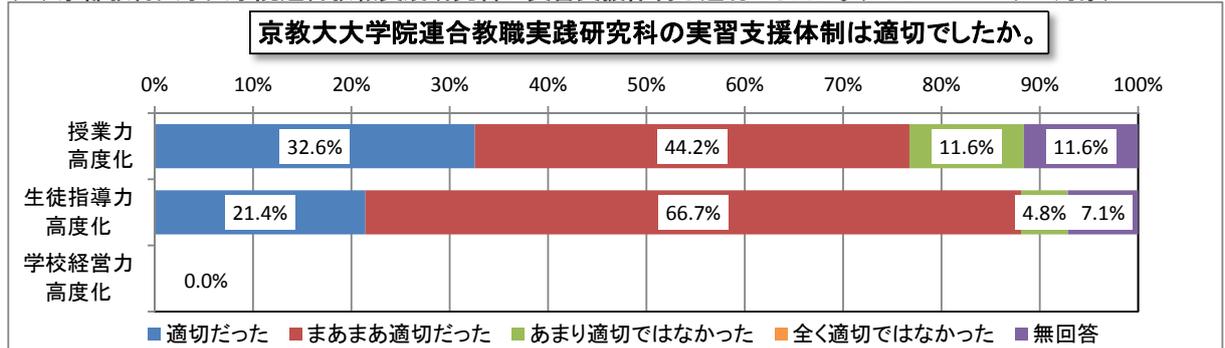
(12) 履修指導は適切でしたか。



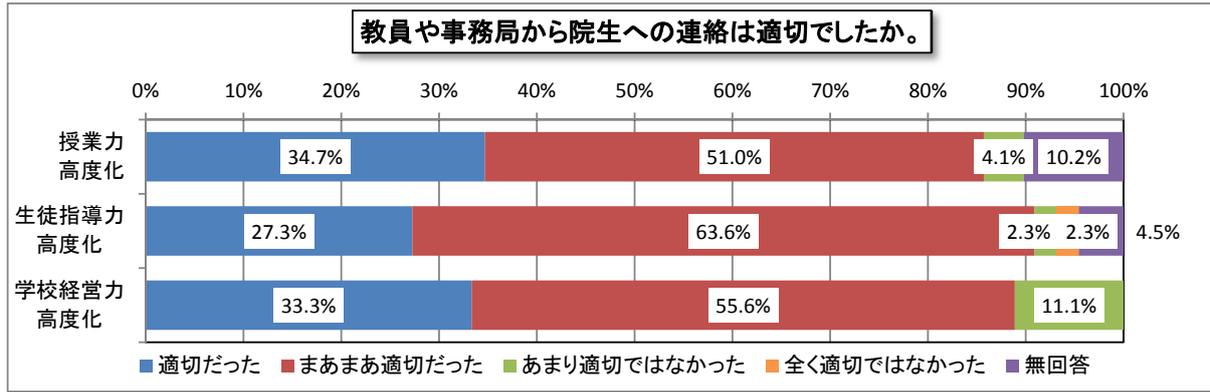
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



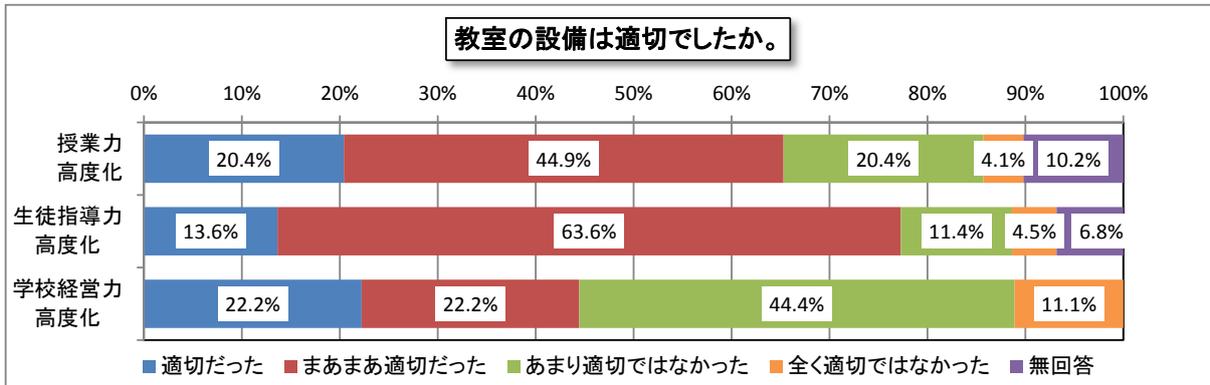
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



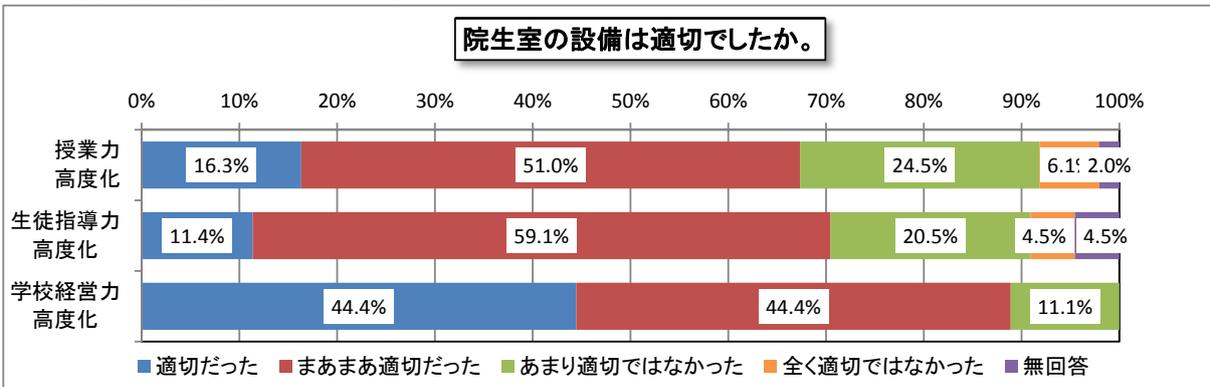
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



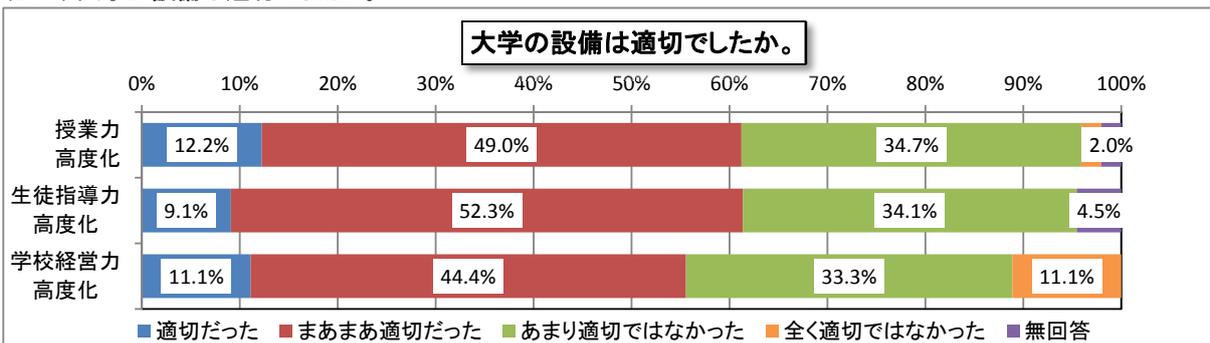
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



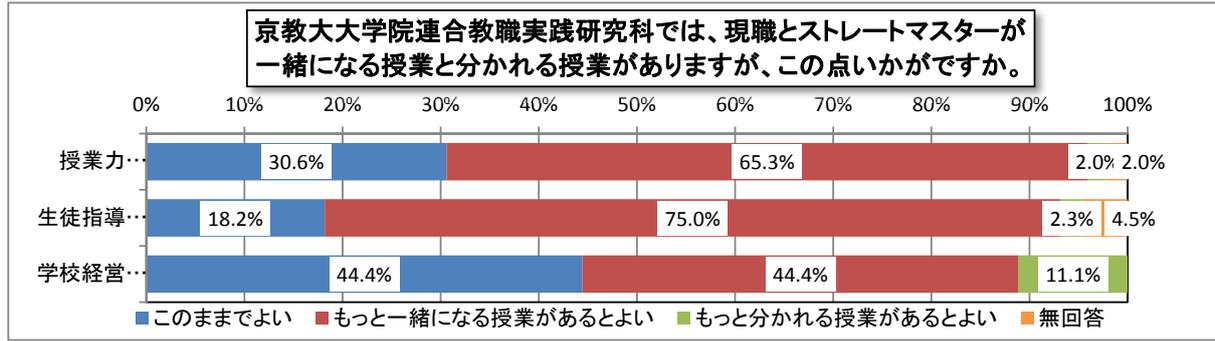
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



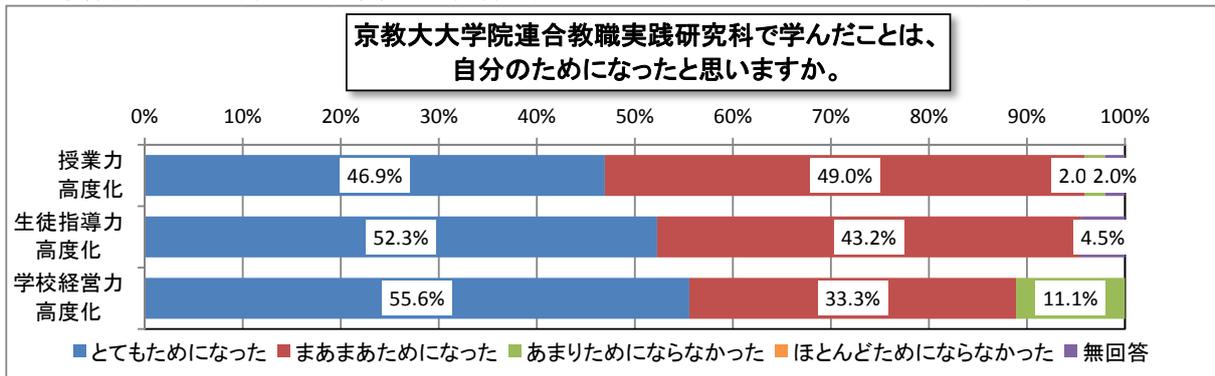
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



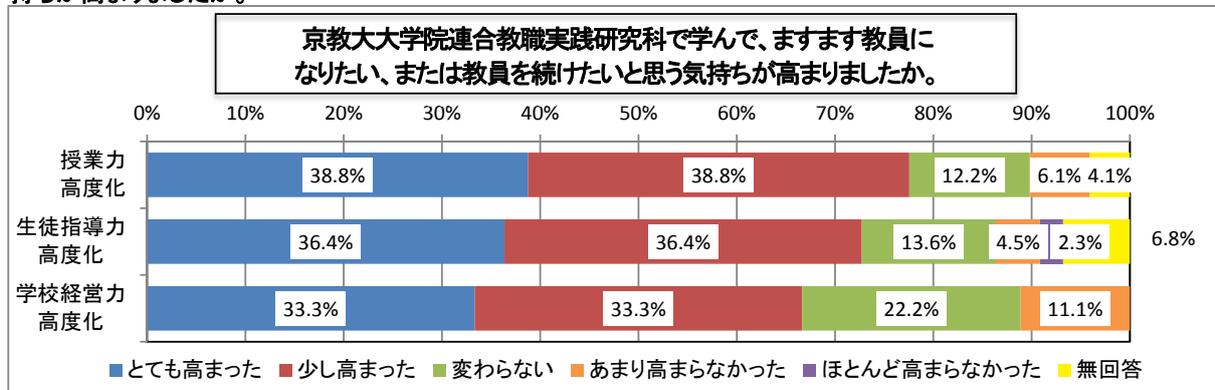
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

